



平安神宮

京 都 の 物 多 様 性 と 社 寺 と

第二号



大覺寺



京都の社寺と生物多様性

大覺寺 平安神宮 第二号

発行に当たって

「京都の社寺と生物多様性」は、京都ならではの自然環境を形づくる重要な要素である社寺林や庭園の多様な生きものを紹介することで、市民や観光客の皆様が、本市の社寺林や庭園を訪問する際に、生物多様性にも着目していくことの目的として、昨年度に第1号を発行しました。

第2号となる本冊子では、生きものマップを「春」「夏」「秋・冬」と季節ごとに分け、より多様な生きものについて紹介する内容となっています。

本冊子を手に取られた皆様が、様々な季節に社寺林や庭園を訪れ、京都の豊かな自然環境を体感されることを願っています。

京都生きもの100選

「京都生きもの100選」は、京都市の生物多様性の大切さを皆様に分かりやすく紹介するために、四季折々に見られる本市の身近な自然に関する情報をまとめたものです。平成28年1月に、2,600人を超える市民の皆様の投票により、①生きものやその生息・生育場所、②生息環境保全の取組、③観光や伝統文化を支える生物多様性の情報の3つの区分に分けて選定し、公表しました。

「京都生きもの100選」の選定により、より多くの市民の皆様や京都を訪れる皆様にとって、生物多様性に触れる機会が増え、更には保全活動への参加につながることが期待されます。

※「京都生きもの100選」の詳細な内容については、「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」を御覧ください。

本冊子に掲載されている「大沢池」及び「平安神宮神苑の水生生物（イチモンジタナゴ等）」も、「京都生きもの100選」に選ばれています。

目次

01

大覺寺

02 03

大覺寺 生きものマップ（春）

04 05

大覺寺 生きものマップ（夏）

06 07

大覺寺 生きものマップ（秋／冬）

08

大覺寺と生きもののつながり

09

平安神宮

10 11

平安神宮 生きものマップ（春）

12 13

平安神宮 生きものマップ（夏）

14 15

平安神宮 生きものマップ（秋／冬）

16 17

平安神宮神苑 池の生きものたち

「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」

生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」は、京都の歴史や伝統文化を育んできた生物多様性について皆様に理解を深めていただくために開設しました。

生物多様性について楽しく学び、生物多様性保全に取り組むための様々なコンテンツを用意しています。

<http://ikimono-museum.com/>



京都市では、**生物多様性保全** の取組を進めています！

詳しくは、京都市生物多様性プランへ生きもの・文化遺産を京都を未来へ～をご覧ください。
→わたしたちの生活は、**生物多様性の恵み**に支えられていることを御存知ですか？
→**生物多様性の恵み**である京都市の資源を活用した生活や経済活動を行いましょう！



大覺寺

大沢池

大覺寺は、正式名称を「旧嵯峨御所大本山大覺寺」と称し、「嵯峨御所」とも呼ばれる真言宗「大覺寺派」の本山です。平安初期、嵯峨天皇が檀林皇后との御成婚の新室である離宮を建立されました。これが大覺寺の前身・離宮嵯峨院です。嵯峨院が大覺寺となったのは、皇孫である恒寂入道親王を開山として開創した876年（貞觀18）年です。弘法大師空海のすすめにより嵯峨天皇が淨書された般若心経が勅封（60年に一度の開封）として奉安され、般若心経写経の根本道場として知られています。明治時代初頭まで、代々天皇もしくは皇統の方が門跡（住職）を務めた格式高い門跡寺院です。

また、「じけばな嵯峨御流」の総司所（家元）でもあり、花とのつながりが深い寺です。



式台玄関



宸殿



大沢池

大沢池は、大覺寺の東に位置し、周囲約1キロの日本最古の人工の林泉（林や泉水などのある庭園）です。嵯峨天皇が離宮嵯峨院の造営に当たりて、唐（中国）の「洞庭湖」を模して造られたといふから、「庭湖」とも呼ばれています。池中には二つの島があり、大きい島を「天神島」、小さい島を「菊ヶ島」といいます。天神島の天神社には大覺寺開創に当たり、奏状文を草案し、大覺寺の俗別当となつた菅原道真を祀り、菊ヶ島には嵯峨菊が自生していたといわれています。この「天神島」「菊ヶ島」の中間に、巨勢金剛が立てたと伝わる「庭湖石」と呼ばれる石があります。

り、この一島一石の配置が華道嵯峨御流の基本型に通じています。池のほとりには、茶室望雲亭、心経宝塔、石仏、名古曾の滝跡があり、国指定の名勝地になつています。

大覺寺 参拝情報

【拝観時間】
午前9時～午後5時
(受付は午後4時30分まで)
年中無休
※寺内行事により内拝不可日有

【拝観料金】
大人：500円
小中高：300円

【大沢池】
午前9時～午後5時



心經宝塔



春の大覚寺生きものマップ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時ものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

01 ヒオドンチョウ
見つけやすさ ★★



樹液や糞糞などに集まるタテハチョウの仲間で、成虫で越冬します。翅の表が緋色で黒い模様があるので、戦国時代の武具「緋縫」に見立てて名が付けられました。翅の裏は茶褐色の枯葉のような模様です。幼虫はエノキの葉を食べます。

02 ヤマブキ
見つけやすさ ★

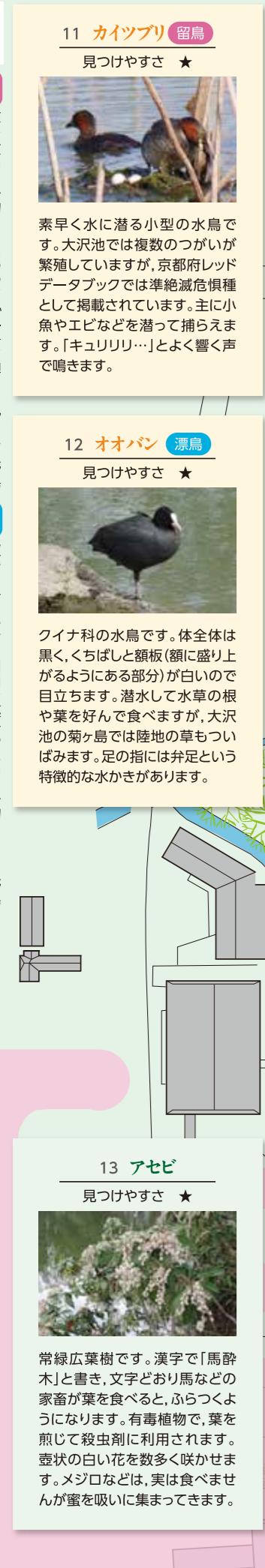


落葉広葉樹です。枝葉が風にたなびく様子が「山振」とされ、ヤマブキに転化したようです。よく見られるハ重咲きのヤマブキは、雌しべと雄しべが退化しているのでほとんど結実しませんが、大覚寺の一重咲きのヤマブキには黒く艶のある実がなります。

*見つけやすさ ★: 見つけやすい, ★★: 少し見つけにくい, ★★★: 見つけにくい



大沢池



用語解説

留鳥

餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥

漂鳥

秋から冬にかけて国内を越冬のために移動してくる野鳥



11 カイツブリ 留鳥

見つけやすさ ★

素早く水に潜る小型の水鳥です。大沢池では複数のつがいが繁殖していますが、京都府レッドデータブックでは準絶滅危惧種として掲載されています。主に小魚やエビなどを潜って捕らえます。「キュリリリ…」とよく響く声で鳴きます。



08 スッポン

見つけやすさ ★

カメの仲間です。甲羅表面は角質化していないので柔らかく、下唇の内側に鋭い角質板があります。指を出すと噛みつくことがあります。水に戻せば離して逃げていきます。日光浴を好み、岩の上などで見られます。



06 コムラサキ

見つけやすさ ★

タテハチョウの仲間です。オスの翅の表は美しい紫色で、近縁のオオムラサキより小型なのが名の由来です。成虫は樹液や糞糞などに集まり、幼虫はヤナギ類の葉を食べます。オスはヤナギの枝先に縄張りを持ち、メスが周囲を飛んでいるのがよく見られます。



04 ヒカゲチョウ

見つけやすさ ★

タテハチョウの仲間で、翅の裏に目玉模様があるのが特徴です。成虫は樹液や腐った果実などに集まり、幼虫はイネ科のタケやササを食べます。その名の通り、日向ではなく雑木林の日陰の環境を好みます。



03 ニホンイシガメ

見つけやすさ ★★

日本固有種のカメです。かつては普通に見られましたが、環境変化やペットとしての捕獲などにより、著しく減少しています。甲羅の後部の縁がギザギザしているのが特徴で、甲羅は褐色を帯びています。幼体(稚ガメ)はゼニガメと呼ばれます。



12 オオバン 漂鳥

見つけやすさ ★

クイナ科の水鳥です。全体は黒く、くちばしと顎板(額に盛り上がるようにある部分)が白いので目立ちます。潜水して水草の根や葉を好んで食べますが、大沢池の菊ヶ島では陸地の草もついぱみます。足の指には弁足という特徴的な水かきがあります。



09 ヤマボウシ

見つけやすさ ★

落葉広葉樹です。4枚の白色の総包片が花びらのように見え、それを頭巾に見立て、中央の黄緑色の集合花が坊主頭のように見えるので「山法師」となりました。9月頃に実が赤く熟し甘味があるので、小鳥たちがついぱみに集まっています。



07 アオサギ 留鳥

見つけやすさ ★

背が青っぽい灰色のサギなので、アオサギという名です。水辺で一年を通して見られ、魚や甲殻類を食べます。翼を大きく広げて日光浴をします。これは体につくダニなどの除去や、カビなどの予防に役立っています。



05 クロイトンボ

見つけやすさ ★

体色が黒っぽい小型のイトトンボです。オスは成熟すると、胸部に青味を帯びた灰色の粉を吹きます。腹(尾)の先は水色です。オスと連結したメスは、水草の茎などの中に卵を産み付けます。



13 アセビ

見つけやすさ ★

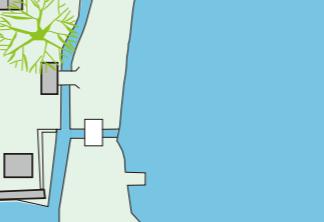
常緑広葉樹です。漢字で「馬酔木」と書き、文字どおり馬などの家畜が葉を食べると、ふらつくようになります。有毒植物で、葉を煎じて殺虫剤に利用されます。壺状の白い花を数多く咲かせます。メジロなどは、実は食べませんが蜜を吸いに集まっています。



10 ソメイヨシノ

見つけやすさ ★

落葉広葉樹で、最も身近な桜の仲間です。ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの交雑種といわれており、幕末頃、染井村(現在の東京都豊島区駒込)の植木屋が育て、売り出しました。春を告げる桜前線も、本種が指標となっています。



13 アセビ

見つけやすさ ★

落葉広葉樹です。枝葉が風にたなびく様子が「山振」とされ、ヤマブキに転化したようです。よく見られるハ重咲きのヤマブキは、雌しべと雄しべが退化しているのでほとんど結実しませんが、大覚寺の一重咲きのヤマブキには黒く艶のある実がなります。

夏大生きものマップ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

用語解説

留鳥

餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥

夏鳥

春に日本より南の地域から繁殖のために渡ってくる野鳥

12 ハンゲショウ
見つけやすさ ★

10 ゴヨウマツ
見つけやすさ ★

08 ハラビロトンボ
見つけやすさ ★

07 コフキトンボ
見つけやすさ ★

05 チュウサギ (夏鳥)
見つけやすさ ★★★

湿った場所を好む多年草です。「半夏生」が名の由来ともいわれています。夏至から11日目くらいに当たる日を暦の上で「半夏生」といい、その頃に葉が白くなるからです。虫媒花なので、虫を呼び寄せるために葉が白くなるともいわれています。

常緑針葉樹のマツです。葉が1箇所から5枚出るので、「五葉松」という名になりました。葉は短くて柔らかく、その表面には気孔列があるため、白い筋のように見えます。球果(マツボックリ)は翌年の秋に熟します。日本原産で、庭木や盆栽として好まれています。

名のとおり腹の幅広いトンボで、オスは成熟すると黒くなる上に青灰色の粉を吹きます。幼虫は毛深いヤゴで常に泥をつけていて、干上がってしまいそうな池の北東の細流でも生き残ることができます。

繁殖のために東南アジアなどの南の国から渡って来るサギです。くちばしの色は季節で変化し、成鳥の夏羽時には黒く、巣立った幼鳥では黄色ですが、成鳥も冬羽時には黄色に変わります。カエルや小魚、昆虫類などを捕らえます。

13 オミナエシ
見つけやすさ ★

11 ノコギリクワガタ
見つけやすさ ★★

09 チョウトンボ
見つけやすさ ★

秋の七草の一つですが、黄色い花のピークは夏です。万葉集や源氏物語にも登場する古くからじみの深い多年草で、盆花の代表格です。「女郎花」と書き、白い花の近縁種オトコエシ「男郎花」と対をなすことで知られています。

大アゴの内側にノコギリの歯のような突起があるクワガタの仲間です。オスは闘争本能が強く活発で、メスは赤褐色で全体的に赤い脚です。周辺の林にはクヌギなどもあるため、本種以外にコクワガタやカナブンなども樹液に集まっています。

蝶のようにヒラヒラ飛ぶトンボです。翅は青紫色で、強い金属光沢がありますが、蝶のように翅に鱗粉はありません。後ろの翅の幅がとても広く、ほかのトンボとは簡単に区別できます。メスは単独で浮葉植物の多い水面で産卵します。

14 イボテングタケ
見つけやすさ ★★

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

13 オミナエシ
見つけやすさ ★

12 ハンゲショウ
見つけやすさ ★

10 ゴヨウマツ
見つけやすさ ★

08 ハラビロトンボ
見つけやすさ ★

07 コフキトンボ
見つけやすさ ★

05 チュウサギ
見つけやすさ ★★★

01 ハシバミ
見つけやすさ ★★

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

シイやカシの林でよく見られるキノコです。傘の表面には白色のイボが多数付いていて、縁には条線があり、つばが取れやすいのが特徴です。有毒なイボテング酸を含んでいるので注意が必要です。樹木と水分や養分をやり取りする共生関係にあります。

05 ハス
見つけやすさ ★

04 ショウジョウトンボ
見つけやすさ ★

03 カワセミ (留鳥)
見つけやすさ ★

02 センニンソウ
見つけやすさ ★

多年草の水生植物です。果托の形がハチの巣に似ており、「蜂巣」が転化してハスとなりました。蓮根はハスの地下茎のことです、実(種子)にもでん粉が豊富なので食用にされます。大沢池では、様々なトンボの羽化や野鳥たちの休息の場としても貴重です。

真っ赤なトンボで、オスは縄張りを持ち、池の同じ場所でよく見られます。メスは単独で水草に腹(尾)の先をこするように産卵します。気温の高い日には、太陽光が体に対して最小限にしか当たらないように、逆立ちをするように体を立てている様子が観察できます。

瑠璃色が美しい野鳥です。古語では「ぞに」は青い鳥を意味し、川にいる「ぞに」が「せみ」に転化したのが名の由来だといわれています。潜って捕らえた魚に勢いがあるときは、枝や岩などに叩きつけて弱らせてから食べます。

陽当たりの良い林縁に育つ多年草です。果実は食用にでき、近縁のセイヨウハシバミの果実はヘーゼルナッツとして知られています。

*見つけやすさ ★: 見つけやすい、★★: 少し見つけにくい、★★★: 見つけにくい

04

秋の大覚寺生きものマップ

生きものの位置を示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。



毎年春に地下茎から新しい芽が出て、大きく成長するイネ科の植物です。ヨシは水中の窒素・リン酸も養分として吸い取り、茎に付く微生物によって水の汚れを分解する働きもあります。大沢池では野鳥の隠れ場になっています。茎は茅葺き屋根にも使われます。



常緑広葉樹で、葉は濃い緑色で卵形ですが、若い葉には深い切れ込みがあります。葉が数多く付いているので、「着ると姿が隠せる蓑」が名の由来です。球状に集まった花序を形成し、果実は1cmくらいで冬に黒紫色に熟します。



台湾や中国南部原産の落葉広葉樹です。日本には江戸時代中期に渡来しました。果実はピンポン球より少し小さいトゲのある球状です。葉は三つの切れ込みがあり、縁には鋸歯があります。紅葉が大変きれいで、高さは20mほどあります。



太くて黄色いくちばしが特徴で、「キョッキョッ」と鳴きながら波型に飛び鳥です。木の実をくわえ、回しながら中の種子を取り出して食べます。「ヒーコヒー」と美しいさえずりです。山間部や北の地域で営巣し、越冬のために市街地にも降りて来ます。



毎年秋から冬にかけてキクに似た黄色い花をまとめて咲かせます。一年中(常緑性)艶のある葉を持つフキ「艶葉蕗」が転化してソワブキになったといわれています。秋になると葉が枯れるフキとは別属です。



ソバキの仲間の常緑広葉樹です。花は白色で葉柄基部から一つづつ付き、短い花柄でぶら下がるように咲きます。葉はお茶の原料となり、果実は花と同じくらいの大きさです。大覚寺の南側の通路に沿って植栽されています。



夏から秋にかけて、種々の広葉樹の枯れた幹や生木の腐食した部分に生えます。上部に大きい下向きの白いツバがあるのが特徴です。キノコ類は有機物を分解して養分を吸収し、それを土に返す役割も担っています。



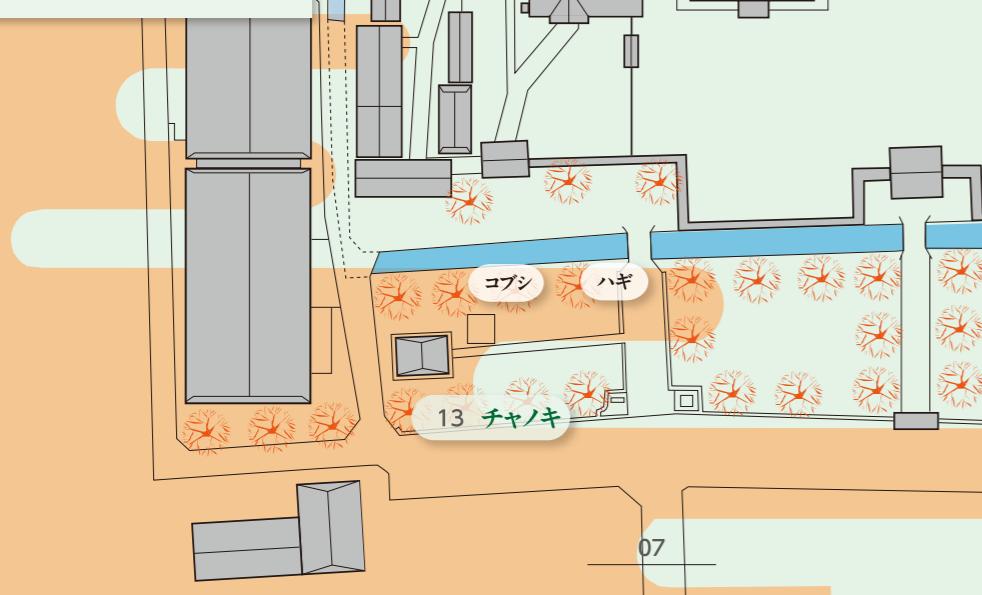
成虫で越冬するシロチョウの仲間です。越冬するときは、単独または数匹で草や木の枝などにぶら下がっています。食草はネムノキやハギで、春から夏にはメスの産卵も観察できます。黄色い翅の裏には褐色の斑点があります。



20cm以上もある大きな艶のある葉を付けます。七つか九つに裂けていて、八つに裂けることはあまりありませんが、「八つ手」という名が付いています。花は晩秋に咲き、球状の花が集まって大きな円錐状の花を形成しています。



後脚に黒・青・赤と綺麗な色がまだら状にあるのが特徴のバッタです。緑色型と褐色型があり、イネ科の草を食べます。動作は非常に素早いので捕獲しにくく、大覚寺境内の草地で多く見られます。



01 ダイサギ 留鳥
見つけやすさ ★



白く大きなサギの仲間です。主に水辺で小魚やザリガニなどを食べますが、草地でバッタなどの昆虫も食べます。くちばしの色は季節で変化し、夏羽時では黒く、冬羽時では黄色です。足の指は黒色で、少し小型のコサギの指は黄色です。

02 オカヨシガモ 冬鳥
見つけやすさ ★



近縁のヨシガモは、美しいカモという意味の「をし(愛)かも」が変化した名です。「丘にいるヨシガモ」については、オスは灰褐色の地味な色です。水草を好んで食べますが、岸に上がって草や種子なども食べます。

03 ヒドリガモ 冬鳥
見つけやすさ ★



冬鳥のカモ類の中では、最も長く4月頃まで大沢池に滞在しています。オスの頭部が赤茶色なので「緋鳥鴨」という名になりました。オオバンが潜って引き上げた水草を横取りするような場面も観察できます。草を食べに岸によく上がります。

*見つけやすさ ★: 見つけやすい、★★★: 少し見つけにくい、★★★★: 見つけにくい

大覺寺と生きもの

いけばな 嵐御流

嵯峨菊

「いけばな」は、日本の四季折々の植物の美しさを瓶に移し、神仏に捧げ、花と語り、そして少しでも長持ちさせたいという昔からの人々の考えに、深い感動を持たせようしたときに生まれた芸術です。

大覺寺を総司所とする「いけばな 嵐御流」

は、平安の初め、嵯峨天皇が大沢池の菊ヶ島に咲く野菊を手折り、器にいけ、その姿の美しさに感動され、「後世花を生くるものは宜しく之を以つて範とすべし」と述べられたのが始まりと伝えられています。嵯峨天皇の自然や草木に対する慈しみの心が、嵯峨御流の礎になっています。



華席



献華式

毎年春に、最大の祭典「華道祭」が開かれます。数多くのいけばなを展示する華展をはじめ、大沢池の「龍頭鶴首舟」、献華式やお茶席、各種法会などが優雅なたたずまいのなか繰り広げられます。

毎秋11月に、様々な風情ある嵯峨菊が一般公開され、訪れた多くの参拝者の目を楽しませています。

『大覺寺 季節の行事』

<春>

- 特別名宝展
- 嵐御天皇奉獻 華道祭
- 灌仏会(はなまつり)
- 「四国八十八ヶ所靈場」お砂踏み

<夏>

- 弘法大師 お誕生祭
- 宵弘法

<秋>

- 観月の夕べ
- 夜間特別拝観
- 特別名宝展
- 嵐御菊展
- 「四国八十八ヶ所靈場」お砂踏み

<冬>

- 節分会(星まつり)

※日時等の詳細については、大覺寺のHPにて御確認ください。
(<https://www.daikakuji.or.jp/>)

嵯峨菊とは、嵯峨天皇の時代に大沢池の菊ヶ島に自生していった野菊を永年にわたって品種改良し、

「天・地・人」の配置に格調高く仕立て上げた古典菊の一種です。



大覺寺の障壁画は国の重要文化財に指定されており、その中には、生きものが描かれた作品があります。代表的なものとして、

●「紙本金地著色 牡丹図(狩野山楽筆)」

●「紙本金地著色 紅梅図(狩野山楽筆)」

●「板地著色 兔図(渡辺始興筆)」

が有名です。

通常は模写が公開されています。原作の公開は不定期のため、大覺寺のHPにて御確認ください。



板地著色 兔図(渡辺始興筆)

重要文化財 大覺寺障壁画

大覺寺障壁画